

地方都市視察報告書

総務区民委員会

1 実施日 令和5年11月1日(水)

2 視察地 京都府綾部市

【市の概要】

(1) 面積 347.10km²

(2) 人口・世帯数(令和5年10月1日現在)

人口 30,614人

世帯数 13,754世帯



(3) 綾部市は、京都府の中央北寄りに位置する田園都市で、美しい自然環境や豊かな里山・田園と農村の暮らし、平和と歴史・文化に彩られた市街地、ものづくりを中心とする多様な産業の集積、そして京阪神地域と日本海地域をつなぐ交通の要衝地であることなど、さまざまな機能や特性がバランスよく備わっている都市である。

また、強い郷土愛や高い文化度、温厚で粘り強い市民性、加えて「ゲンゼ」の創業や「大本」の開教、日本初の世界連邦都市宣言等に見られる進取の気質、営々と受け継がれてきた地域の伝統行事など、多くの有形無形の歴史的・文化的資産を有している。

加えて、舞鶴若狭自動車道と京都縦貫自動車道、そしてJRの山陰本線と舞鶴線が市域で交差する交通の要衝地でもあり、京阪神地域への移動時間の大幅な短縮が進み、舞鶴若狭自動車道や京都縦貫自動車道の全線開通により、今後も交流拠点・物流拠点としての機能が一層高まるものと期待される。

このようなまちの姿を展望し、令和3年度スタートの第6次綾部市総合計画の将来都市像を「一人ひとりの幸せをみんなで紡いで実現できるまち…綾部」と定めている。

3 視察項目・内容

スポーツ推進委員が考案した「あやべ・クロスロー」等の取り組みについて

4 視察参加者

【委員】

佐藤 佳 一委員長 時光 じゅん子副委員長 高阪 まさし委員

井下田 栄 一委員 大門 さちえ委員 山口 かおる委員

伊藤 陽 平委員 藤原 たけき委員 青木 仁美委員

古畑 まさのり委員

【随行】

議会事務局次長 鈴木 浩司 議会事務局議事係 波多野 浩二

5 視察結果・所感

平成24年からスタートした「あやべ・クロスロー」は、4チームでの対戦を基本とし、1チーム6個の木製パックをゴールに向けて投げ合い得点を競うもので、綾部市スポーツ推進委員連絡協議会が考案したニュースポーツである。

同じ中丹地域の舞鶴市と福知山市がそれぞれ独自のニュースポーツを開発する中で、綾部市も年齢、性別、障害の有無にかかわらず誰でも気軽に楽しめるインクルーシブスポーツが必要だと認識し、「あやべ・クロスロー」を開発するに至った。

「あやべ・クロスロー」は、障害の状況や年齢等に応じて柔軟にルール変更もできるため、地域の行事や親子レクリエーション、高齢者サロンなど、いろんな場面で活用されている。また、4チームで対面するため、相手チームとの駆け引きを行うなどコミュニケーションが活発に行われることで盛り上がるスポーツとなっており、市民からも好評を得ている。

コロナ禍でもスポーツ推進委員を中心に「あやべ・クロスロー」のPRを進めており、第1回大会が令和6年3月10日に開催されることとなっている。

今回の視察では、委員も「あやべ・クロスロー」を実際に体験したが、コミュニケーションを通じ非常に盛り上がった。新宿区でも、新しいスポーツを区民に広め、進めていくときに、たくさんの方が参加し、盛り上がり、健康にも効果があるという考え方を背景に持つておくことは重要だと感じた。

6 主な質疑項目

- (1) あやべ・クロスロー導入による市民の反応、効果について
- (2) 様々な世代が気軽に楽しめるクロスローを行う事になった経緯、実績、導入効果や課題等について
- (3) 誰もが参加でき楽しめるスポーツという考え方について
- (4) 新規スポーツ導入におけるコストと管理の視点について
- (5) 参加してもらうための広報活動や他市との連携について
- (6) 実際に経験し、みんなで楽しく盛り上がるスポーツについて
- (7) スポーツの地域浸透から大会の開催について
- (8) 従来からあるニュースポーツではなく、より楽しいものになるよう工夫したことについて
- (9) 幅広い層が楽しめるように対応したことについて

7 その他

【共同視察者】

生涯学習スポーツ課長 高橋 美由紀

